

「あこがれの自分を目指して ～共に歩む！一人でも翔ぶ！～」

平成29年度 柳津町立西山中学校

# 学校だより

平成30年3月30日(金)発行 第 50 号 発行責任者:高橋 弘悦

## さようなら…西山中学校 閉校式典盛大に開催

3月24日、陽光降り注ぐ中、西山中学校閉校式典が行われました。

昨年7月に「西山中学校閉校記念事業実行委員会」が発足し、約8ヶ月、この日のためにかけ足で色々な準備を進めていただきました。保護者の皆様や閉校事業実行委員会の皆様には、前日まで準備作業をお手伝いいただき、大変ありがとうございました。

当日は井関町長様をはじめ、多数のご来賓の方々、同窓生の皆様、保護者・地域の皆様、旧職員の方々など、総勢140名を超える方々にご参加いただき、母校への深い想いを感じることができました。

式典終了後の思い出を語る会には、92名のご参加をいただきました。参加された方々は、懐かしい再会を果たし、楽しかった母校での思い出や、閉校する母校への想いを語り合い、大変活気のある会とすることができました。

この度の閉校事業に際し、ご尽力をいただいた閉校事業実行委員の皆様、ご支援いただいた柳津町ご当局、教育委員会の皆様、ご協力いただいた保護者・地域の皆様に改めて心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



福島大学管弦楽部による校歌演奏



閉校記念碑

## 閉校・退任にあたって

第24代校長 高橋 弘悦

高い志をもって学校経営にあたられた諸先輩。校長室の写真額を前に、その職責の重要性に身の引き締まる思いがしたのが思い出されます。以来5年…。無我夢中で過ごした西山中学校が本日閉校となります。



不謹慎な話ですが、当初は自分が最後になるとは思いもせず、為すべきことはかねてより噂があった来たるべき「閉校」に備えることと考えておりました。統合しても自信と誇りを持って行動できる西山プライドを構築し、堂々と自己主張できる強さを身につけさせること、そして次の校長に十分な準備をして引き継ぐということです。4年後には、男子1名の学校になることも承知していましたが、自分がその場に立つとは思いませんでした。

そのため、1、2年目は少々急ぎすぎたさらいがあります。他の学校ではあまり歓迎されないことも実践しました、生徒、保護者の皆様、そして教職員にはご迷惑をおかけしたと思っています。しかしながらそれを許していただける度量の広さが西山中学校にはありました。

最後を飾るにふさわしい校長たり得るか…。勤務期間が延長され、いざ「最後を務めることになるかも」と意識せざるを得なくなったここ数年は、特に職責の重さを感じながら過ごしてきました。

地域に支えられ、地域のシンボルとして大きな役割を担ってきた西山中学校。課題は少子高齢化に伴う生徒数の減少。そしてそれに伴う子どもたちの、小規模校ゆえの漠とした引け目と内向きな性格です。

一方で、「学校のためなら何でもやる」という地域の学校に対する熱い思いと豊かな自然、子どもたちの純な心と限りない可能性がありました。これら強さと弱さを生かして、生徒には、統合しても自信を持って自らを発揮しきる力強さと、地域に対する思いを育てるのが学校の役割と考えました。

一年間の構想の期間を経て、平成26年度から活動を本格化させたアントレプレナーシップ育成教育は、このような考えのもとはじめた活動です。

一連の活動は、多方面から高評価をいただき、県内すべてのテレビ局や新聞で折に触れ紹介されました。当初は戸惑っていたインタビューにも、回数を重ねるごとに自信を持って堂々と対応するようになっていき、とても頼もしく感じたものです。

校長在任5年は、初代校長を務められた阿部秀夫先生に並びます。做すべき前例のない中、新制中学校の礎を築かれた初代校長先生には遠く及ぶものではありませんが、初代と最終が5年の任期であったことには因縁を感じます。

この5年の間に、大きく羽ばたいてくれた生徒たち、どんな状況にあっても学校を信頼し、協力を惜しまない保護者の方々、地域の学校として温かく見守ってくださった西山の方々、そして他校にはない斬新な教育に、昼夜を問わず邁進してくださった教職員諸兄に心より感謝申し上げます。

本日、町ご当局に閉校式を開いていただき、町長様に校旗を返納いたしました。西山中学校が正式にその役割を終え、精神が閉校記念碑に引き継がれました。

この後、誰もいなくなった校舎を施錠し、最後の校長としての役割を終えたいと思います。西山中学校を愛してくださったすべての方々に感謝申し上げ、閉校、退任のごあいさつといたします。西山中学校、ありがとうございました。

平成30年3月30日